

福島県PTA連合会会報
第69号_H18.03.06

P T A ふくしま

第 69 号

福島県PTA連合会
編集/調査広報委員会
印刷/泉印刷所

「わくわく土曜クラブ」(親子で川遊び)

川にいるいろいろな生き物を、自分たちで探し、手で触れる体験をしました。



《主な記事》

- 提言—県小学校長会長— P 1
- 家庭のしつけ・教育を見直し、充実させるPTA活動 P 2～P 3
- ・明和中学校PTA P 2
- ・高郷第一小学校PTA P 3
- 子どもの災害事故防止習字・ポスターコンクール P 2～P 3
- 子どもの安全に関するアンケート P 4～P 5

【提供】白河市立関辺小学校

役割を果たし、一体になって



福島県小学校長会長

佐藤 晃

小学校五年生ごろの春、農作業が新たに始まる頃でした。うららかな日曜日、異年齢の友達数人で遊んでいるうちに、「野焼きをしよう」ということになりました。雪が解けたこの時期、農家の人たちが田畑の畦などの枯れ草を焼いているのを毎年目にしていましたので、子ども心に「良いことをしてあげるんだ。」ぐらいの判断だったと思います。ところが、火の勢いはわたしたち子どもの予想を遙かに超え、近くの杉林に燃え移らなばかり。リーダーの指示で脱いだ上着を使い、必死になって消火にあたりました。知らぬ間に、近くで農作業をしていた大人の方がかけつけてくれ、やっこのことで消し止めることができました。

親には報告しませんでした。しかし、親にはその方からちゃんと報告されているではありませんか。親からもみっちり叱られたことがつい昨日のことのように思い出されます。同時に、わたしたちを心から叱ってくれた地域の大人、そして親への感謝の念が湧いてきます。お恥ずかしい話ですがこれはわたしの失敗体験の一つです。この当時、どの地域においても、大人は悪さをしている子どもを目にしたら、家庭と連携しながら指導してくれていたのではないでしょうか。

近年の少子・高齢化・情報化、核家族化の進行など、社会全体が急激に変化している時代であっても、「ならぬことはならぬもの」であります。中央教育審議会の答申、本県の教育改革推進プログラムの目指すところを踏まえ、家庭、地域、学校がそれぞれの役割をしっかりと果たしながら、より一体になって、かけがえのない子どもたちを健やかに育てなければと考えております。

家庭のしつけ・教育を見直し、充実させるPTA活動

地域や学校とふれあい、子どもと共に活動する中で考える家庭教育

明和中学校PTA

はじめに

明和中学校PTAでは、家庭・学校・地域が同じ願いのもと手を取りながら、しっかりと子どもたちと向き合っていくことが大切だと考え、学校や地域とのふれあいを通して、家庭教育の充実を目指そうと考えました。そして、そのふれあいの中に、「子どもたちに伝えたいこと」「感じてほしいこと」「考えてほしいこと」など、私たちの願いを込めていくことにしました。

また、アンケートを実施して、家庭の様子やPTAの活動についてご意見をいただきました。

私たちの取り組み

一、親子クリーン作戦

夏休みの早朝、町の行事として行われるクリーン作戦に、地区の方と共に親子で参加し、ゴミ拾いや草むしりなどに取り組みました。

参加者の声

親子で汗を流せて気持ち良かった。(父親)、みんなでやると力がわく。自分の住んでいる場所がきれいになるとすっきりする。(子ども)、孫と一緒にいるようだな。(地域の方)

ふれあい学級

授業参観、懇談会の後、親子でお昼を食べたり、講演やスポーツを楽しむんだりして、一日を有意義に過ご

しました。

本年度的内容

①講演会

町教育委員会の健全育成の行事とタイアップして、地元警察署の補導員の方を講師に招き、親子で「性非行」についての講演を聴きました。

②ふれあいレクリエーション

親と子と先生方で混合チームを作り、ビーチボールバレーを楽しみました。



参加者の声

普段は話づらい「性」について、家庭で話すきっかけになった。(母親)、あんなにお父さんが頑張ると思わなかった。かっこ良かった(子ども)、汗をかいて気持ち良かった。(親子)

地区運動会

毎年、秋に開催される地区運動会

に、子どもたちが選手として参加するだけでなく、地域の方や親と共に役員としても頑張りました。先生方も選手や役員で活躍しました。

参加者の声

中学生が手伝ってくれるから運動会ができる。どんな先生がいる分かって良かった。(地域の方)、地域のいろいろな人と話せて良かった。地域のために役立てて良かった。(生徒)

アンケートの実施

家庭の様子やPTAの取り組みについて、会員のみなさんがどのように感じているかアンケートを行いました。

アンケートの結果

子どもと一緒に活動し、ふれあうことが大切だという意識が強く、PTA行事などに積極的に参加していると答えている方が多くおりました。

家庭で大切にしていることでは、「休日是一緒に過ごす」「会話を多くする」「ご飯を一緒に食べる」など、やはり、子どもとのふれあいの時間を大切にしている事が分かりました。

最後に

家庭や学校、地域が思いを一つにし、「子どもは地域の宝物」という気持ちで子どもたちとふれあえば、子どもたちの中に地域の一員としての自覚が目覚め、その心が子どもたちの健やかな成長を支えてくれると思います。

今後も「家庭教育はふれあいから」を合い言葉に、みんなで力を合わせ頑張っていきたいと考えております。

第29回子ども災害事故防止習字・ポスターコンクール

今回も温かいご支援とご協力をいただき開催できましたこと、厚く御礼申し上げます。

習字・ポスターの部とも、昨年より多くの参加校、出品作品がありました。関係の先生方のご理解に改めて感謝申し上げます。

習字の部入賞者

小学校の部

- ◆最優秀賞《一年》増子 博(玉川一) 《二年》伊藤萌々(湯本一) 《三年》鈴木聡志(菊田) 《四年》橘 沙紀(小高) 《五年》伊藤 茜(磐崎) 《六年》古川沙也子(二本松南)

- ◆優秀賞《一年》土田桃歌(渡利) 水谷幸恵(宮城) 矢吹 郁(三神) 《二年》佐藤紫帆(棚倉) 山本藍加(伊達・大田) 作田友香(瀬上) 《三年》馬上優美香(いわき・鹿島) 塩原友香(瀬上) 若松里奈(大浦) 佐藤瑠美(二本松南) 五十嵐遥菜(河東三) 《四年》佐藤亜美(平四) 小川真莉菜(荒館) 齋藤友加(南郷二) 佐藤勇人(城南) 赤間 峻(伊達・大田) 《五年》千葉歩美(四倉) 穂積華奈(五箇) 植田愛美(好間一) 齋藤みさき(大平) 鈴木楓佳(菊田) 《六年》佐藤茉莉(四倉) 片桐大輔(五箇) 平澤育美(表郷) 大場聡子(渡利) 柳沼拓哉(阿武隈) ◆優良賞《一年》阿部夏海(柏城) 金成美幸(小名浜一) 矢崎祐也

審査の先生方(敬称略)

- 習字 野澤 光男(元北沢又小校長) 佐藤 一男(元清明小教諭) 鈴木 幸子(元蓬萊小教諭) ○ポスター 武田 德行(前渡利小校長)



▲小2年 湯本一小 伊藤 萌々さん



▲小4年 小高小 橘 沙紀さん



▲中2年 高田一中 小川 千晶さん

- (好間一) 小久保 凌(片門) 《二年》佐藤晴佳(五箇) 熊田匠 杜(仁井田) 皆川里奈(永和) 野内李久里(長瀬) 《三年》武田莉

家庭のしつけ・教育を見直し、 充実させるPTA活動

高郷第一小学校PTA

一、はじめに

現在、全国的に不登校やいじめ、暴力行為など子どもたちの心の荒廃が原因と考えられる問題が数多く起こっている。心の荒廃は、他者とのふれあいの機会の不足、体験活動の不足がその原因の一つといわれている。確かに私たち親の世代と比べて、他者とのふれあいや体験活動が圧倒的に不足しているように思われる。

高郷第一小学校では、現在のところ前述したような問題は起こっていないが、子どもたちの豊かな心の育成のため、学校とPTAが連携しながら、子どもたちとふれあい、子どもたちが豊かな体験活動ができる環境づくりを支援していきたいと考え、実践を進めている。

二、活動のねらい

- ① 親と子のコミュニケーションの機会とする。
- ② 子どもの勤労意欲を育てる。
- ③ ボランティアの心を育てる。
- ④ 生活科や総合的な学習の時間で行われている、米や野菜、そば作りの支援を行う。

三、活動の概要

① リサイクル活動
五月二十二日と十一月十三日の休業日に二回実施した。リサイクル

④ 通学路清掃
六月十三日、登校時に通学路の

ゴミを通学班ごとに分かれて集める取り組みを本年度初めて行った。平日の実施の活動であったため、仕事の都合で参加できなかった保護者もいたが、各自できる範囲で子どもたちと活動を行った。



四、活動の成果

本校のPTAも少子化の影響で年々会員数が減少し、各部の活動を進めていく上でも支障が出てきている。そこで、本年度より会員全員がいずれかの部に所属することとした。このことは、PTA会員の意識の高場につながる、子どもたちに豊かな体験をさせようそのための環境づくりを支援していこうという共通理解のもと活動を進めることができた。

五、今後の課題

親と子が一緒に活動する場合、どうしても手を出し過ぎてしまう傾向がある。最低限の支援をし、子どもが自分で考えて行動できる場を保障していかなければならないと考える。「やり過ぎない支援」を今後も心がけていかなければならないと思う。

ポスターの部入賞者

▼小学校

- ◆最優秀賞 《一年》高橋慧智華 (須賀川二) 《二年》高木あゆ子 (白河三) 《三年》鈴木亜由美 (相馬・八幡) 《四年》時杉 茜 (小高) 《五年》白石田佳奈 (赤木) 《六年》坂本春菜 (富岡二)
- ◆優秀賞 《一年》石井 慧 (平二) 《二年》駒木根末希 (湯本一) 《三年》鈴木悠花 (中央台東) 《四年》目黒未佳子 (城南) 《五年》但野元紀 (日立木) 《六年》

▼中学校の部

- ◆最優秀賞 《一年》坂本文音 (棚倉) 《二年》小川千晶 (高田一) 《三年》柏村歩実 (矢吹)
- ◆優秀賞 《一年》若林夏紀 (信夫) 《二年》高木真理子 (浪江東) 《三年》古川鞠子 (二本松一)
- ◆優良賞 《一年》松本かすみ (二本松一) 《二年》山田優花 (広野) 《三年》鎌田光貴 (浪江東)

▼中学校

- ◆最優秀賞 小川菜摘 (天栄 二年)
- ◆優秀賞 佐藤 綾 (若松六 一年)
- ◆優良賞 十文字理佳 (白河二 三年)



▲小5年 赤木小 白石田佳奈さん



▲中2年 天栄中 菜摘さん

子どもの安全確保に関するアンケート結果について

健全育成委員会

昨年十一月下旬、十二月月上旬と連続して、広島・栃木両県で、小学一年
女児が、下校途上で事件に遭遇し殺害されるという決してあってはならな
い事件が発生したことはご存じのとおりです。

本県PTAでは、その直前の十一月月中旬に県内全PTAを対象に「子ど
もの安全確保」に関するアンケートを実施しました。回答率九七・四%と
高い関心を持っていただきました。以下、調査結果の概要をお知らせいた
しますが、十一月二十五日時点での調査結果であることを踏まえ、今後の
対応に当たっていただきたいと思います。

調査のねらい

私たちPTAは、明日を担う子どもたちの健全な育成を願ひ、
学校はもとより地域の方々と連携して様々な活動を行っていま
す。

さて、最近では、声かけ事案、不審者による傷害事件などが見
られ、子どもたちの登下校、放課後、休日等の安全な生活が脅
かされるという憂慮される傾向があります。

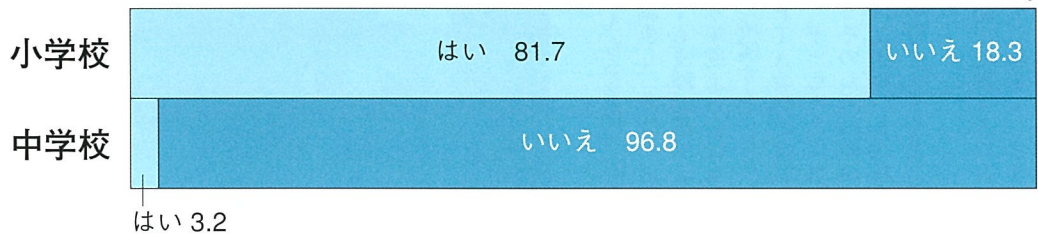
県内各地では、地域の子どもは地域で守ろうと、地域を挙げ
ての安全・安心への取り組みがなされ、その成果が見られてお
ります。

つきましては、県PTA連合会健全育成委員会では、PTA
として、子どもたちの安全・安心のために、地域の一員として
できることは何かを探り、広く考えていただきたく、ここにア
ンケートを実施するものです。

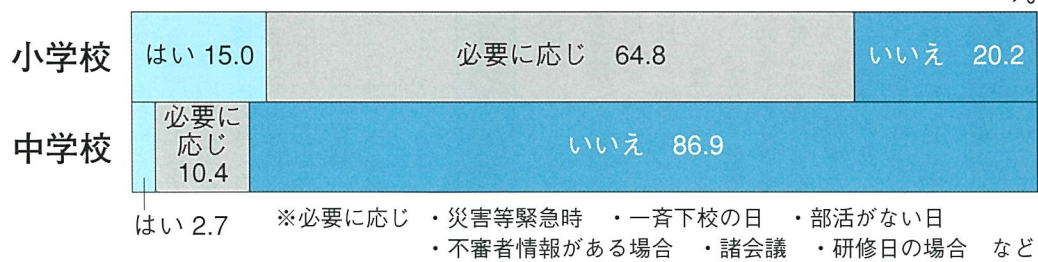
- ・ 調査対象 県内全小・中学校PTA
- ・ 調査実施時期 平成十七年十一月中旬～下旬
- ・ 回答PTA数 七百五十PTA

○アンケート結果の概要

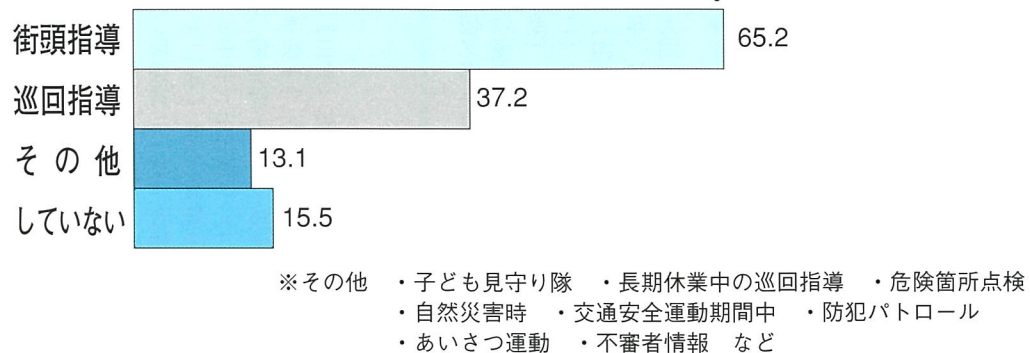
1. (1) 日常的に集団登校をしているか。



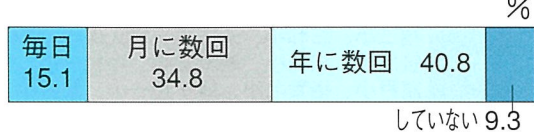
(2) 日常的に集団下校をしているか。



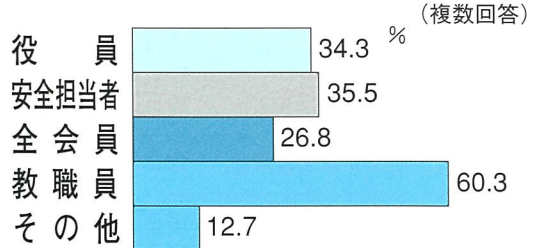
(3) P T Aの取り組み (複数回答)



(4) P T A の取り組みの頻度



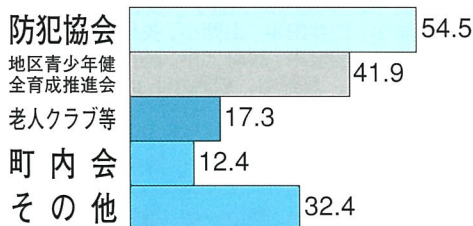
(5) P T A の取り組み参加者



※その他
 ・子ども見守り隊 ・補導委員
 ・健全育成委員 ・部活動保護者
 ・運転者会 ・ボランティア など

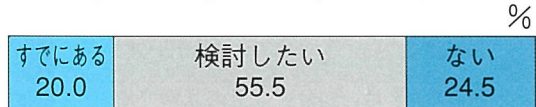
2. 地域の各種団体による安全対策

(1) 子どもたちの安全対策を行っている団体やボランティア (複数回答) %



※その他
 ・子ども見守り隊 ・スクールガードリーダー
 ・スクールサポーター ・運転者会 ・消防団
 ・地域安全推進員 ・交通安全協会 ・交通安全母の会
 ・地区育成会 など

3. 安全対策に対する今後の予定



子どもの安全に関するアンケートを実施して

福島県 P T A 連合会健全育成委員長 添 田 保 雄

全国各地で、特に低学年の子どもを対象とした事件が発生し、大きな社会問題となっている。この現状の打開策として、数年前から各地域での取り組みが行われてまいりました。

以前から子どもの教育は、学校だけではなく、家庭・そして地域の持つ役割が大きいと言われておりました。古き良き時代、家庭には、「しきたり」といった今ではほとんど聞くことのないようになってきたルールがありました。またご近所には、どこにでもいたいわゆる「うるさいおじさんやおばさん」が、必要ときに注意したり叱ったり、またある時は励ましてくれたりと、いろいろな場面において地域全体で特に何の相談をすることもなく自然な形で地域の子どもたちの健全育成に大きく役立っていました。

均で一校当たり全校児童の約四〇%にも上るそうです。このように子どもたちの生活環境は通学途上での安全確保の上で問題となることが多くなってきました。

しかし、時代の流れとともに変化した社会環境や少子化、核家族化等の家庭環境の影響により、子どもが一人で過ごす時間が多くなり、少人数のため登下校時に一人で百メートル以上民家も無い区間を歩く子どもの数が増えていきます。ある調査によると、そういう子どもたちの占める割合が全国平均

一昨年には、本県でも児童が被害者となる連れ去り事件が発生したことから県内各地で「子ども見守り隊」などの組織が立ち上げられ、それらに P T A が率先して参加して自分たちの子どもは自分たちで守ろうという取り組みが行われております。しかし、学校の規模や地域性などにより、そういった取り組みが出来ないという自治体や P T A があり、取り組みの方策に苦慮している、という各地区の声により、今回「子どもたちの安全に関するアンケート」を実施いたしました。

このアンケート結果は、比較的に比較的平穏な時期のデータであり、「見守り隊」などの取り組みを行っている地区、またどのような取り組みをすれば良いか現在検討中、といった現状を捉えたものとして貴重な結果であると考えられます。

このことにより福島県はもとより、全国各地で「子ども見守り隊」などの組織の立ち上げをした地域が多くなってきました。

この結果を踏まえ、平成十八年度に今回と同様なアンケートを実施した場合、その変化が歴然としたものが出来たのではないかと考えます。

終わりに、大変お忙しい中アンケートにご協力をいただきました関係各位の皆様方に御礼を申し上げます。そして今各地区で行われている、子どもを守るための地域と一体となったこの取り組みが一過性のものとして終わってしまわないことを切に願います。

このアンケートの結果を見ると、「P T A」としてそういった取

り組みはしていない」といった回答が約一六%あり、また、今後の子どもたちの安全対策を充実させる活動の予定について、約二五%は「ない」と答えています。

そしてそのような事件を起こす加害者となる人間に育てないことが、今後の家庭・地域社会・学校での教育であり、これは健全育成の永遠のテーマであると思えます。

子どもたちの安全対策を充実させる活動の予定について、約二五%は「ない」と答えています。

そしてそのような事件を起こす加害者となる人間に育てないことが、今後の家庭・地域社会・学校での教育であり、これは健全育成の永遠のテーマであると思えます。

子どもたちの安全対策を充実させる活動の予定について、約二五%は「ない」と答えています。

平成18年度県P連行事予定

月	主な行事	
6	評議員会① 小・中別課題研修会 理事会・常置委員会①	7日(水) 19日(月) 19日(月)
7	役員・総務委員会合同会	12日(水)
8	郡市P母親代表研修会 日P研究大会みやぎ大会 理事会・常置委員会②	18日(金) 26日(土)~ 27日(日) 31日(木)
9	東北P郡山大会(兼県大会)	9日(土)~ 10日(日)
11	県教育長との懇談・要望 県議会各派への要望	日時未定 〃
1	理事会・常置委員会③	25日(木)
2	評議員会②	15日(木)

※会報発行は、7月、12月、3月の3回です。

平成17年度県P連活動スローガンへの取り組み実践例

活動例	実践校 (順不同)
親子レク活動 学年ごとの親子活動 体験活動	福二小、三和小、永田小、大久保小(田村)、棚倉中 笹原小、田口小、原町三中、中村一小、富岡二小 請戸小、榎葉北小、緑ヶ丘一小、粟野小、安積三小 富田西小、鶴城小、瀬上小、埴小、美山小、五箇小 小高小、幾世橋小、小金井小、松長小、山白石小 桑野小、八幡小(相馬)
物づくり体験	南向台小、磐梯二小、慶徳小、母畑小
自然体験活動	関辺小、山岡小
奉仕活動(清掃・除草等)	渡利中、伊達小、小国小、安積二中、郡山五中、 柏城小、仁井田中、山岡小、矢祭中、鶴城小、千里小 南郷中、館岩中、原町二中、請戸小、滝根小、緑ヶ丘中 安子島小、草野中、松長小、山白石小、喜多方二小 小野中
資源回収活動	針生小、南郷中、請戸小、錦中、緑ヶ丘中
教養講座・講演会 鑑賞教室	飯野中、石井小、郡山一中、御館小、岩瀬中、仁井田中 永田小、蓬田小、西向小、内川小、城北小、磐梯二小 永井野小、上郷小、桶売中、大平小、三和小、美山小 広戸小、須釜小、浪江小、桑野小、八幡小(相馬)
バザー・文化祭協力	安積二中、原町一小、幾世橋小、広野中
地区運動会	柱沢小、山白石小
あいさつ運動	大越中、田島小
児童をほめる条例の制定	浅川小
魔法のポスター運動	山湯小
家族でがんばろうカード	永井野小
ボランティア(学習支援・図書)活動	川内中、二本松北小

PTA広報紙・学校新聞コンクールに
応募ください (学年・学級・児童会・生徒会等も含む)

- 締め切り 3月末日
- 送付先 〒960-8648 福島市柳町4-29
福島民友新聞社事業本部
「新聞コンクール係」

安全互助会から【お知らせ】と【お願い】

これまででもお知らせのとおり、平成18年度から入会申し込み時期など、一部変更になります。すでに加入申し込みを受けていますが、年度末から年度始にかけて次の点に留意願います。

- 未請求の事故がないかどうか
 - ・特に傷害事故については、事故発生より180日を限度として補償しております。
- 加入申し込み人数の報告
 - ・平成18年度の加入申し込みは、3月10日までとなっていますが、その後、加入人数の変更があった場合は、4月25日までに報告願います。
- 18年度からの変更点
 - ・兼務幼稚園長の幼稚園については、小学校にお子さんが在学している場合、これまでは保護者分の会費はいただいていたのですが、PTAは、別組織であるという理由から、18年度からは幼稚園、小学校、それぞれに加入いただくことになります。

本号に「子ども安全確保に関するアンケート」結果が載せられています。各地区で「子ども見守り隊」が脅かされています。各地区で「子ども見守り隊」など組織されていますが、アンケート実施後、新たな手だてが講じられています。地域で子どもを守る取り組みの拡大を願うものです。(T・H)



福島県PTA連合会 (TEL 024-545-5982 FAX 024-545-5990)

《提携損保》 共栄火災海上保険株式会社

〒960-0231 福島市飯坂町平野字三枚長1-1 JA福島ビル2F

TEL 024-554-3006(代) FAX 024-554-3023